

学校課題

自分の言葉で考え、伝え合える児童の育成

—基礎的な力をもとに、思考を広げ表現できるようにする取組—

本校では、上記のような学校課題を設定し、研究に取り組んでいます。

本年度は、言語力の基礎となる語彙力を育成し、さらに思考力・表現力を豊かにしていきたいと考えています。そこで、伝え合う力を「共感的な人間関係を土台に、豊かな語彙をもち、適切な言葉を選んで自分の考えを広げたり深めたりする力」ととらえ、言語力の向上をめざして研究を進めていきます。

今回は、人権教育の研究も兼ねた5年生の道徳の実践でした。

台風の影響で臨時休校となり、予定より1日遅れの研究授業となりましたが、栃木県総合教育センターの小栗克樹指導主事、下野市学校教育課の坂本順子指導主事にも来ていただくことができ、ご指導を受けることができました。

有名な「命のアサガオ」という実話の資料で、母親に共感させることにより、「様々な人々の支え合いの中で一人一人の生命が育まれていることを知り、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる」ことがねらいでした。授業の視点は、「①小グループでの話し合いは、価値を高めるために有効であったか」、「②手紙を書くときに手にした『命のアサガオ』の種は、どのように自分の命をとらえていくかを考えるのに効果的であったか」でした。

日常的な取組の成果もあり、中心発問「どんな気持ちでアサガオの種を配り始めたか」について、ペアで話し合うところは、穏やかにかわり合い、よい考えを出そうと取り組めていました。

終末で指導者が事前に手配し、用意していた「命のアサガオ」の種を全員に配ると、驚きや感激の声が上がりました。命の尊さをより身近に、実感しながら、自分の考えをもつのに大変有効な支援になりました。

子どもと同じ目線で個別支援に当たったり、どの意見も平等に扱ったりと、基底的指導がしっかりできていること、我が子を失う母親に共感させていくという難しい展開ながら、補助発問が効果的に出されていたこと、ICT、実際の写真などを効果的に使ったことなどが成果として確かめ合えました。

一方で、ペアや全体での話し合いに、手紙を各活動もあるので、2時間扱いではどうか、「命のアサガオ」の種を終末でなく中心発問のところで出すなどの展開の工夫、母親にさらに深く共感させるた



めの手だてなどが課題となりました。

小栗先生からは、教科等の目標を達成するとともに、基底的指導に配慮しながら、人権教育のねらいを達成するのが直接的指導とされるが、本時の授業者の支援の姿勢はすばらしい基底的指導になっていたこと、実態や学習経験、関連する活動から、適切なねらいや活動が設定されていたことなどのよい点をご指摘いただきました。

坂本先生からは、さまざまな形態での話し合いの場が充実してきていることが窺えるので、今後全体で、小グループで、ペアでなど話し合う活動をたくさん取り入れて、言語活動を充実させてほしいというアドバイスをいただきました。

